

2016.9.18

「気象コンパス」主宰

古川武彦

彼岸花



太陽が秋分を境に南半球に移動するにつれ、日本の南の海面水温が下がって「小笠原高気圧」が衰え始めるので、吹き出す南寄りの気流も弱まる。一方、シベリア大陸方面には寒気が蓄積され始め、南に押し出してくる。本州の沿岸に東西に横たわる「秋雨前線」は、南側の名残の夏と北側の秋の空気がせめぎ合うラインだ。前線では風が収束して上昇気流が起きるので、曇りで雨も降りやすい。関東地方が前線の北に位置するか南かで、天気はまるで異なる。北なら晴れ間も現われるが、南の場合は曇天で崩れる。天気予報も難しい時期。

「暑さ寒さも彼岸まで」。彼岸は夏から秋へ季節の転換点でもある。甚大な災害をもたらした台風は9月下旬に来襲したものが多い。台風16号が16日現在北上中。彼岸花も無事であることを。(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)

2016.9.25

「気象コンパス」主宰

古川武彦

秋の長雨



市にある知り合いの果樹園をブドウ狩りに訪れた。園内に足を入れると、シャインマスカットがたわわに実っていた=写真。園主は「9号台風では、雨に弱いマスカットのために天井に張ってあったビニールがほとんど飛んでしまった。それどころか今も影響は非常に深刻で眠れない」と言う。9~12号台風の影響で北海道や九州方面への宅急便が滞り、まだ数百以上がさばけていないとの嘆き。こんな分野にも影響があったのか。

今シーズン上陸した台風は6個、1951年以来2位タイの記録で、特に北海道や東北地方に未曾有の被害を与え、まだ余波が残っている。

台風16号はようやく東に抜けた。秋雨前線も解消したようだ。週明けからは高気圧に覆われて晴れ間が続く見込み。いよいよ秋が深まる。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



彼岸花 水戸市植物公園

(特別に許可を得て撮影)

いつの間にかめっきり涼しくなった。あちこちで彼岸花が咲き始めた。「曼珠沙華」は別名だ。まず葉も節も持たずにすーっと茎が伸び始め、最後に赤くて繊細な花びらを目いっぱい広げる。白もある。

22日は秋分、お彼岸の中日。太陽は真東から昇り真西に沈む。昼と夜が12時間と等しくなる。昼間は冬至に向かって毎日約2分ずつ短くなり、10月半ばを過ぎると5時前に日が沈んでしまうから、日暮れを早く感じる。「秋の日はつるべ落とし」のゆえんだ。



夏から秋への季節の変わり目に、曇天や雨をもたらす「秋雨前線」が形成される。大陸方面の冷涼な乾いた気団と南の暖かく湿った気団の境目だ。秋分を境に大陸上の気団が優勢となり、日本列島に押し出し始める。前線が解消あるいは南に押し下げられると、本格的な秋の到来。

秋雨の期間は年によって長短があるが、今年は前線が9月初旬から2週間ばかりも南岸に停滞したため、長雨で晴れ間がほとんどなかった。

そんな天候の合間を縫って、9月下旬、土浦